

# 看護師の情報行動分析の一例

## ―看護研究入門者の看護師と認定看護師教育課程学生の差異から―

福武 亨

愛知医科大学総合学術情報センター

### 1 はじめに

看護師のキャリアは多様化している。認定看護師，専門看護師，診療看護師，その他修士，博士号の取得，教員等様々であるが，それらのキャリアアップに際して基本となる活動のひとつが看護研究である。そこで，大学図書館が看護師のキャリアアップを支援するため，愛知医科大学では A 大学，A 大学病院に対して定期的に調査を行っている。

### 2 調査方法・対象

本報告では，2014 年から 2016 年までに，A 大学，A 大学病院における看護研究入門者の看護師(n=121)と認定看護師教育課程学生（入学時）(n=101)である看護師を対象に行ったアンケートの結果から情報行動の差異についてカイ二乗検定を用いて分析を行ったので報告する。

なお，看護研究入門者とは学会発表をしたことがなく，院内の看護研究発表をしたことがないもしくは数回程度ある者である。

### 3 結果

アンケート結果を用いて，看護研究入門者の看護師と認定看護師教育課程学生を比較したところ，情報収集・発信，データベースの利用，日本語論文，和書の利用，情報の保存に関する 22 項目に対し有意差あり(p<0.05)という結果となった。これらの結果から認定看護師教育課程学生は，次のような特徴があるといえる。

- ・実務，看護研究を行う上で他部署や外部の人間との対面でのコミュニケーションが盛んである。また実務，看護研究を行う上で電子メールでの発信も多い。
- ・看護研究における大学図書館の利用，文献の利用，医療系のサイトの閲覧が多い。
- ・看護研究を行う上で医中誌 Web をよく利用している。また日本語論文，和書を多く読んでいる。
- ・方法に違いはあるが，実務や看護研究で得た情報を保存している。

以上の特徴を踏まえ，大学図書館では看護研究入門者の看護師に対するサービスを展開していく必要がある。